

くるまのエアコンを過信しないで！！

「車内はエアコンがあるから熱中症にかからない」と考えるのは危険です。

長時間車内の乾燥した状態にいと、身体から水分が失われて脱水症になりやすいといわれています。脱水症は熱中症の症状の1つです。

子どもを車内に置いたまま車を離れることもやめましょう。

ちょっとした買い物だからとエンジンとエアコンをかけた車内で待たせるのは、熱中症以外にも子どもが誤って車を操作してしまうリスクもあります。



たかめよう交通安全

交通安全に完全、完璧はありません。あらゆる機会にできることを一つひとつ積み重ねの繰り返しで安全を高めていきましょう。

子どもは大人の真似をする

子どもは大人が思っている以上に大人の行動を見ています。

大人は交通ルールやマナーを守りよいお手本を見せるようにこころがけましょう。

子どもの目線で見てみよう

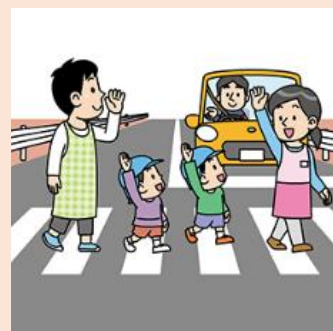
子どもと一緒に歩き、子どもの低い目線から危険な箇所を確認してみましょう。

更に子どもの視野は大人の70%ほどしかありません。

大人には見えているものでも子どもには見えていない危険がいっぱいあります。

子どもには具体的な言葉で伝えよう

「よく見る」、「注意する」などあいまいな表現ではなく、「首を動かして右・左を見る」「音が聞こえないか確かめる」など具体的な動作を教えるようにしましょう。



大人と子どもの視野の違い

